名 簿

伊穴渡三白今田後三戸後稲後渡成 東見邉浦石川嶋藤浦上藤摩藤邉年 聡智智由千公由史純 貴 未香 美子恵子春江理子一仁徳敦誠郎

原大甲松渋伊若安大岩渡三穴和 山塚斐土谷東杉藤木田邉浦見士 め夕恵圭尚勝裕 と有 己み子子穂渚み子美一文司史**卒**

長 谷小学校卒業生名

0

後若原渋石若黒三渡佐田成 藤杉山谷田杉木浦邉藤嶋年 隆成大大峰雄大卒 子苗季希範人有輔士朗士

大安大渋樋拳村赤穴若若大渡大大後後 塚藤塚谷口野上峰見杉杉塚邊塚木藤藤年 亜か由夕千由麻有拓為恒儀光玄慎淳 希お子り紀子春夏紀里朗信幸孝洋英二一剛

三大後後渋若渡平若三成 塚藤藤谷杉邊松杉浦年 公裕真早宗晃美哲奈卒 惠喜介弓苗作弘紀也

田後伊赤田神樋穴樋戸宮後三原後成 尻藤達峰嶋田口見口上成藤浦山藤 さ誠哲貴良卒 裕辰一洋沙洋公久貴 耶 美美 お 治郎 行幸 一徳美子花平徳子子誠り治郎行幸

川南

今 阿

宫後渋伊宫後大石若武樋赤赤平佐田高智大阿樋大成 成藤江達成藤塚田杉藤口峰峰松藤島柳葉塚南口塚年 祐絵春直祥賢継卒

武村三高宮梅若和安 藤上浦木成城杉田藤 剛祐哲とゆ希剛真真由 志子也えり美志一美

伊清田成 達松鳴年 慎泰卒 也司貴

足後赤石渋髙衛田武三武後白原清成 立藤峰本江木藤尻藤浦藤藤石山松年 一麻雄直裕章大さ麻佳慎千智恵浩卒 衣をおきます。

清渡足後大阿三後梅三田児成 松邉立藤塚南浦藤城浦島玉年 祐亮里恵幸奈真 穂 智 一 吾 美 乗 恵 子 子 淳 博 奈 美 孝

清武澁石安嶺佐清後後佐村後成 松藤江本藤 藤松藤藤上藤 奈 理 史 美 子 郷 香 徳 人 幸 美 雄 枝 仙

田村三三甲武樋清成 島上浦浦斐藤口松年 良育恵弘健綾賢雅卒

田佐白清梅後渡大児村 嶋藤石松城藤邊塚玉上 隆知源和栄亜竜 也祐德浩夏宗伸徳矢朗

大成 十五年度卒

大大羽足田村田清甲成 塚塚野立嶋上島松斐四 万真尚翔克美か桃博度 也人登平秀香り子樹

赤児佐安樋嶺大成十二 塚玉藤藤口 塚三 塚 峰玉藤藤 年 賢 度 卒 豊地華の薫人

梅羽甲児大大大高後足宮成 城野斐玉塚塚塚柳藤立成 由勝翔麻竜美陽裕美哲美**夜** 住登平美也妃助郎佳哉加

良安坂原成 藤部上山十 宏い竜采年

髙安足大坂二成 木部立塚上宮九 日直比由観里度 向呂紀月桜

田成 十八年 木 向 由 由 市 嶋 里度

髙 安 成

香卒明里

坂村田安下成 上上島藤村六 奈勇み芳洋度 菜治り将貴

田梅 嶋城 佳 歩 奈

長谷小学校閉校記念事業実行委員会

役 職 名	í	団 体 名		氏	名	1	
会	長	長谷小学校区教育後援会長	渋	谷	誠		治
副会	長	長谷地区自治会長会々長	穴	見	久		義
副会	長	長谷小PTA会長	原	Ш	英		治
副会	長	長谷小校長	*	光	か	ず	3
事 務	局	長谷小校区教育後援会幹事	大	塚	義		貝
事 務	局	長谷小PTA副会長	甲	斐	克		彦
事 務	局	長谷地区自治会長会代表	樋	П	春		夫
事 務 局	長	長谷小教頭	坂	井	敬		淮
会 計 監	查	教育後援会会計	=	宮	隆		Ξ
会 計 監	查	長谷地区自治会長会代表	若	杉			和
会	計	長谷小教職員	後	藤	美	由	糸
委	員	長畑自治委員	Ξ	浦	誠		治
委	員	山内自治委員	佐	藤	憲		-
委	員	栗ヶ畑自治委員	大	塚	義		貝
委	員	黒松自治委員	後	藤	嗣		典
委	員	高津原・山田・畑ヶ川自治委員	穴	見	久		義
委	員	柴北上自治委員	樋		春		夫
委	員	柴北下自治委員	若	杉	1,4347		和
委	員	葛川自治委員	Ξ	浦	利		明
委	員	婦人会々長	渡	邉	美	津	子
委	員	婦人会副会長 (栗ヶ畑)	大	塚	里		子
委	員	婦人会副会長 (黒松)	高	野	テ	ル	子
委	員	柴北川を愛する会々長	大	塚	松		信
委	員	柴北川を愛する会事務局長	渡	邊	雪		挝
委	員	長谷小教育後援会監事	武	藤			良
委	員	長谷退職現職教職員の会代表	安	藤	恒		美
委	員	主任児童委員	高	野		ル	子
委	員	民生委員	渡	邉	晃		陸
委	員	民生委員	原	Ш	勝		喜
委	員	民生委員	穴	見	貞		俊
委	員	学校評議員	安	藤	邦		男
委	員	学校評議員	渡	邉	映		美
委	員	学校評議員	渋	谷		賀	子
委	員	教職員代表	宇野			ずず	ょ
委	員	PTA統廃合委員	安	部	善善		文
委	員	PTA統廃合委員	原	Щ	聡		子
委	員	PTA統廃合委員	八	坂	孝		範
委	員	PTA統廃合委員	石	田	仁		美

長谷小学校閉校記念事業専門部会

		明 部		
訂合註短售如 合	記念式典・	記念事業部会		
記念誌編集部会	記念式典部	記念碑建設部	(会計・調整等)	
部 長 安藤 恒美	部 長 良藤 幸治	部 長 安藤 邦男		
副部長 渡邊 雪法	副部長 石田 仁美	副部長 三浦 誠治		
会 計 原山 聡子	会 計 後藤 嗣典	会 計 武藤 一良	114	
佐 藤 憲 一	渋 谷 誠 治	穴 見 久 義		
大 塚 義 則	若 杉 柾	高 野 テル子		
樋 口 春 夫	三 浦 利 明	穴 見 貞 俊		
渡 邉 美津子	大塚里子	二宮隆三		
渡 邉 晃 陸	大塚松信			
渋 谷 多賀子	原山勝喜			
	渡 邉 映 美			
安 部 善 文	良 藤 美佐子	八 坂 孝 範		
安 部 公 代	平 石 浩 光	八 坂 啓 子		
原 山 英 治	平 石 由美子	樋 口 直 美		
坂 上 純 子				
甲斐克彦				
甲斐千春				
森 俊二	I I I mid			
森かおる				
宇野木 しずよ	米 光 かずみ	武 藤 かおり	坂 井 敬 治	
加藤直子	國 枝 麗 華		後 藤 美由紀	

編 後 51

せていただきました。ご了承ください。 速貴重な文章をお寄せいただきました。皆様の想いを大切にする意味で句読点や脱字などの最低限の修正をさ 閉校記念事業の一つとして記念誌の発行を企画し、原稿執筆依頼をお願いしましたところ快諾いただき、

早

のではないでしょうか。内容の充実した読みごたえのある記念誌が編集できたと思っています。 にありて思うもの」を改めて実感させられました。この記念誌を読まれて、皆様もきっと同じ想いを抱かれる 長谷小学校の重みが、こんなにも卒業生一人ひとりの胸に宝物として深く生き続けており、「ふるさとは遠き い想いと愛郷心の大きさと深さに、編集委員一同大いに感銘させられました。百二十有余年の長い歴史を持つ 編集に当たり、全員の方々の原稿を読ませていただきました。執筆いただいた皆様の長谷小学校へ寄せる熱

んできたこの小学校を貴重な資源として再出発し、歴史を継承発展させていく責任と義務があると思います。 さて、閉校はやむを得ません。しかし、「教育の里」長谷校区民の心のよりどころとなり、多くの人材を育

- 大人から子どもまでの交流による元気づくりの場として
- 地域が学び合い、高め合う生涯学習の場として
- ・地域の伝統を守り育て、文化やスポーツ活動の場として
- 校区の自然・歴史・産物・人材等を活かした物作りの場として

地域のセンターとして大切に管理保存し、活用していかなければならないと存じます。

ます。これは、卒業生をはじめ、長谷小学校に関わった全ての人々の願いであり、 望を持って追い求めていくそんな場として再構築し、長谷に誇りと活力を取り戻す契機になればと念願してい 「ふるさとは財産」です。校区を受け継いでいく人材育成と地域の人々の生き甲斐づくりのために、 期待でもあることを再確認

しながら編集後記と致します

ながたに

豊後大野市立長谷小学校閉校記念誌

平成二十二年二月二十一日発行

印刷 三和印刷出版株式会社 閉校記念事業実行委員会

印

〇九七—五九六—七七〇〇